

編集 後記

今冬はインフルエンザワクチンの供給が遅れていますが、マスクでも大きく取り上げられたことによって、いつもより前倒しで接種を希望する方が増え、かえって供給不足に拍車がかかってしまいました。改めてリスクコミュニケーションについて考えさせられる出来事でした。

今月号では、原著2編、公衆衛生活動報告と資料が各1編の計4編をお届けします。

原著は、日本における外国人居住者のヘルシー・マイグランド効果に関する論文で、本邦においても同効果が示唆されるという新たな知見が示されており、公衆衛生活動報告は、男性交代勤務者の飲酒行動に関する要因分析、ひきこもり当事者によるピア活動の実践報告といずれも現場の公衆衛生活動に即した非常に有意義な結果が報告されています。資料では、自治体における飲食店営業者を対象とした健康増進の取り組み状況が明らかにされており、保健所の積極的な取り組みが期待されるどころです。

これらの論文が皆さんの公衆衛生活動の一助になればと期待するとともに、読者の皆さんの活動についても論文投稿という形にて積極的に報告をいただければと思います。
(毛利好孝)

次号予告 (第65巻・第1号)

公衆衛生活動報告

関東・東北豪雨における避難所サーベイランスの活用……………栗田順子, 他

資料

山形県の新任期保健師の集団・地域を対象とした実践能力の到達度と家庭訪問との関連

……………松田光子, 他

65歳高齢者における23価肺炎球菌ポリサッカライドワクチン (PPSV23) 接種率および接種啓発

活動の実態に関する全国調査……………村上義孝, 他

保健師養成機関における「公衆衛生看護の倫理」教育の実態……………小林真朝, 他